

科目	「問3. 授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した。」及び「問15. あなたはこの授業に毎回出席しましたか」から、学生の受講態度についてどのようにお考えですか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	学生の 受講態度
Sp	<p>本学で20年、前任校を併せて26年間、毎年、授業の実践と反省・改善を繰り返してきたが、受講生の各自の態度は、大学に入学するまでの小1～高3までの学校生活の中で培われてきたものだ、つくづく思う。2014年度後期、sp1の1060119と1060128の2つの授業を、同じ教育目標、内容、方法によって計画して実践したが(もちろん、一端、授業が開始されれば、相手の反応・関心や理解度合いに応じて目標・内容・方法を適宜修正せざるをえないわけだが)、学生の受講態度は明らかに個別で、(授業による・学習者得たの)成果も全く異なるものだったことから、このことは、改めて実証されたように感じている(このテーマについては、授業改善アンケートやそこで分析しようされている事象・課題として、当然、視野に入れられていることと想像しているが、少なくとも、本評価書でとられている方法、記述欄においては表現できず(回答の選択肢にない)、把握はされないのではないかなと思う)。</p> <p>もちろん授業者として、いわゆる「授業改善」は常に行っているが、それ以上に、いわゆる(一般的な意味での)「受講生」ではなく、愛知教育大学の現実の学生・学習者としてとらえ、その態度やその変化(発達)そのものを研究したり、それによって明らかにされた学習者像のもとで、授業改善研究を行う必要を感じる。ただしこのような研究は、授業者自身が自分の授業のために行うものであると、個人的には思っている。またもし、大学や教員集団の単位で行う場合であっても、一方向からたとえば反省を促したり、ある理想的な改善の姿に向かわせる方法や、授業者集団の平均点の向上や「底上げ」を図るような意図ではなく、各自の教員が現に行っている改善を実践・ケースとして大切に扱い取り上げる研究方法の方が、成果は上がるのではないかと考え、自分自身の考える授業改善に向かって取り組んでいる最中である(改善案)。</p>	個人によつて(大きく)異なっていた。
Sp	(無記入)	非常に良い
Sp	(無記入)	非常に良い
Sp	全回出席と、ほとんど出席で約80%でした。2年生でしたが、真面目に取り組んでました。	良い
Sp	一年生は特に出席状況、授業参加態度を重く評価にも入れているが、一部の学生に時間数不足にならなければよいと考えている者がいたのが残念	良い